7 評価

環境コミュニケーション／京都工芸繊維大学

2023年8月28日（月）、京都工芸繊維大学の「和楽庵」にて、京都工芸繊維大学との意見交換会を開催しました（京都工芸繊維大学12名、東海国立大学機構17名が参加）。和楽庵は同大学に移築された大正時代の洋館です。

今回の意見交換会は東海国立大学機構として3度目の開催となりましたが、参加した3大学の学生11名からの積極的な発言も多く、大変有意義な意見交換となりました。

京都工芸繊維大学では、ISO14001の認証を取得しており、2016年からは環境マネジメントシステム（EMS）に安全側面を組み込んだ環境安全マネジメントシステム（ESMS）を運用しています。環境安全教育による環境安全マインドをもつ学生の育成を目標の一つとして掲げており、環境安全に関する教育研修を実施し、また環境サークル「あーす」では、教職員・学生の「環境意識向上」を目指し活動していました。

3大学の環境サークルがそれぞれの活動を紹介し、古着のリユースや広報活動等について活発な意見交換が行われました。

意見交換会でのご意見は、本報告書に反映できる点は速やかに反映し、その他のご意見は次年度以降の環境報告書ならびに環境活動のさらなる発展に役立てていきます。

意見交換会の様子

集合写真

いただいた意見

- 多くの学生が編集委員となり参画している点はすばらしい。学年や所属部局も幅広く、参考にしたい。学生の名前が環境報告書の最後に掲載されており、達成感も感じられる。
- 岐阜大学では、ISO14001の内部環境監査を実施し、学生も監査員として参画できている。大学が学生の意欲を引き出すサポートをしていることに感心した。
- 読者の対象として、大学の構成員や関係者だけでなく高校生や地域住民等を想定している点は興味深く、環境報告書が大学の活動や学生の目線を知るきっかけになる。
- 第3者評価として外部の企業の方から寄稿してもらっており、そのつながりを生かし環境コミュニケーションを実施している点なども評価できる。

参考になった京都工芸繊維大学の取組

- ISO14001認証に学生も構成員としており、環境安全教育も含め広範囲に展開している。
- 環境安全報告書としており、環境に関連した安全管理についても掲載している。
- 環境サークル「あーす」は、ペットボトルの使用量削減のためウォーターサーバーを設置しており、学生から好評を得ている。

参加学生のコメント

各大学の環境報告書の内容や、サークル活動について話し合いました。京都工芸繊維大学のウォーターサーバー設置の活動やデザインに拘ったポスターを見たり、岐阜大学が作成した植物マップの完成度の高さに驚いたり、とても刺激をもらいました。他大学の環境サークルとの交流を通じ、自身のサークルの強みや改善点を見つけられたと思います。また機会があればぜひ交流したいです。

▶名古屋大学医学部2年
土方愛梨
（環境サークルSong of Earth）

各大学の環境報告書を通じて、環境についての理解が深まり、環境サークルの活動など新たな情報も得られました。他大学も積極的な環境への取組を行っていることを知り、周囲に広めたいと思いました。さらに、各大学が情報交換を通じて取組方法を共有し、良い環境づくりに貢献していく姿勢が素晴らしいと感じました。

▶岐阜大学工学部3年
中村天音、長友志絵美

環境コミュニケーション ／ 日本ガイシ株式会社

2023年3月10日(金)、日本ガイシ(株)本社/名古屋事業所にて、岐阜大学・名古屋大学で環境に関する活動を行っている学生15名が、工場見学と環境に関する部署の方々との意見交換を行いました。東海国立大学機構環境報告書2021の第三者評価を日本ガイシ(株)ESG※1推進部長の野尻敬午様にお願いしたことがきっかけで、今回の環境コミュニケーションと対談が実現しました。

※1 ESG：環境(E:Environment)、社会(S:Social)、ガバナンス(G:Governance)の英語の頭文字

ESG推進部の方から日本ガイシ(株)における環境配慮活動について紹介していただき、また、製品に触れながら環境に配慮した製品についての説明を受けました。続いて、自動車排ガス浄化用セラミックスの工場を見学させていただきました。

環境コミュニケーションでは、両大学OBの田島正徳様、岩田康資様も参加され、カーボンニュートラルや資源循環社会へ向けた取組、生物多様性への考え方などについて意見交換しました。

意見交換の話題

- 資源・製品を循環させることについて
- 長寿命の製品をつくることの会社への利益
- 企業をさまざまな面から評価するESG評価
- 生物多様性保全の取組　etc

参加学生のコメント

CSR※2やSDGsが企業においても深く浸透しつつあること、株主や顧客がそうした取組を注視しており、企業も力を入れているということを実感しました。日本ガイシ(株)では、“企業活動の中で”どのように環境保全に貢献するのか工夫しているというお話が印象的でした。

工場の生産ラインで投入する原料を無駄なく使うラインが組み込まれており、また、排熱についても工場外の建物で利用することでZEB※3を実現させていることから、工場という環境循環型社会を自分の目で見ることができ、貴重な機会となりました。

自動車排ガス浄化用セラミックスの微細な構造について、実際に製造されている過程を見られたのは興味深かったです。日本ガイシ(株)の環境に関する取組では、水素を燃料に用いたセラミックスの焼成などの日本ガイシ(株)にしかできないこと、規模が大きく困難なことに取り組む姿勢が印象的でした。

事業活動を通じた社会貢献の姿を理解することができました。日本ガイシ(株)では、碍子と呼ばれる電線の支持器具を製作する事業からセラミックス開発の技術を発展させ、その技術を二次電池や空気浄化装置など幅広い分野に応用することでSDGsに貢献していることがわかりました。技術の研鑽が環境問題の解決に重要だということを実感できました。

※2 CSR：企業の社会的責任　※3 ZEB：ネット・ゼロ・エネルギー・ビル

日本ガイシ(株)大学OBのコメント

自身の業務内容を説明することで少しでもカーボンニュートラルについて興味を持ってもらえればと思い、参加させて頂きました。学生さん達の学ぼうとする姿勢がとても印象的でした。今回の訪問が学生さん達にとって「カーボンニュートラルで社会に貢献したい」と思える良いきっかけになれば幸いです。

第三者評価

出光興産株式会社　先進マテリアルカンパニー
安全環境・品質保証課
課長　山根（やまね） 秀樹（ひでき） 氏

当社においては2050年ビジョン「変革をカタチに」に向け、全社で取組を進めています。そのような中、貴機構の環境報告書へ関わる機会をいただき、誠にありがとうございます。同報告書を拝読しての感想を下記いたします。

1.「TOPICS」に関して

「カーボンニュートラル推進室」の設立、及び同部署が中心となったシンポジウムの開催とそこでの貴機構の教育方針の紹介、共有状況、及び産学連携推進への思いがまとめられておりました。また他大学、他法人とのカーボンニュートラルに向けた協力推進の様子、貴機構におけるゼロカーボン化に向けたロードマップの策定など、積極的に環境活動に取り組まれている状況が伝わってきました。

それらの活動が地球環境大賞をはじめとした各賞受賞につながり、貴機構の活動が多方面で評価されていることが簡潔にまとめられています。

また、機構内の両大学における実際の省エネ活動の状況についても触れられており、足元からの現実的活動も積極的に推進されている様子が見て取れます。

2.「環境管理体制と環境方針」に関して

研究機関においては例が少ないのではないかと思いますが、環境安全統括室を今年度設置され、施設マネジメント統括本部などの部署と協力しながら、包括的な環境管理体制を構築され、一丸となった活動を推進されていることに驚くとともに、更に成果を期待いたします。

3.「環境研究」に関して

今回の報告書では7件のテーマが取り上げられておりました。その中で、今回環境循環型メタノール活用のためのC_1微生物の分子育種に取り組まれている中川教授のご研究と海洋環境保全の指標として生物多様性の把握に取り組まれている自見講師のご研究が特に目に留まりました。その他のご研究も、カーボンニュートラルに向けた各産業分野の課題とその解決・実現に向けた研究活動として大変意義深いものと感じました。

4.「環境教育」に関して

両大学の教育内容のごく一部ではあるものの、知ることができました。ウランバートルや名古屋近郊の里山など現場、現実に根差した教育を実践されていることが伝わりました。こういった講座、教育の場が更に増えていくと良いと感じました。

5.「環境に関する社会貢献活動」に関して

セミナーやシンポジウムの開催だけでなく、岐阜大学での学生が参加した内部環境監査の実施など、大変面白い活動だと感じました。また、さまざまな社会貢献活動に取り組まれていることが、端的に述べられておりました。特に興味深かったのは学生の皆さんの活動です。起業部や里山暮らし応援隊、環境サークルの活動など学生の皆さんがSDGsなどについて真剣に考え、自らは何ができるのかと真剣に活動している様子が伝わり、大変頼もしく感じました。

6.「環境マネジメントデータ」に関して

CO_2排出量などのデータが達成目標とともにグラフ等を活用され、簡潔にまとめられておりました。また廃棄物の排出・管理状況やPRTR等についても管理されており、貴機構としての高いレベルの管理状況が理解できました。

7.総括

大学本来の機能・役割である優秀な人材の輩出に加え、環境の観点における高いレベルでの社会貢献とビジョンの提言などに継続的に取り組まれていることが伝わる内容でした。更なる高みを目指し、活動を進めていただきたいと思います。

idemitsu

出光興産株式会社
https://www.idemitsu.com/jp/